



ひだまり

さくら千手園 佐倉市青菅1019 043-462-2008 木の宮学園 佐倉市青菅1051 043-463-1008

目次

散歩道	1
さくら千手園	2
ソフトボール大会	2
千手園日記	2
作業班紹介(実習班)	3
クラブ紹介(華道)	3
木の宮学園	4
新年会・もちつき会	4
木の宮日記	4
作業班紹介(外注班)	5
フリータイム紹介	5
サポート	6
ボランティア紹介	6
アプローチ	7
治療教育学(その6)	7
情報フラッシュ	8

【第一回 千手会年忘れ会】



乾杯



クイズ



合唱

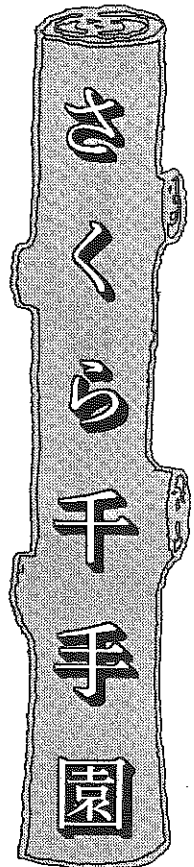


ビンゴ

散歩道

開所以来の園内でのクリスマス会を変更し、志津コミュニティセンターで第一回目の年忘れ会を開催した。園外実施では、移動や食事が懸念されたが、園の車をフル活動し食事も「すごいごちそう」「みんな手作りなの」と感嘆の声があがるほどだった。一年間のお礼をこめて招待したボランティアを含め数百人が、一階フロア全体を使うことができ、ゆったりとした雰囲気。保護者会のバザーも入口のベストポジションで華やかで、特にシルクフラワーが印象的。会場では、たらふく食べた人々が利用者の園生活ビデオに「オレがでてるヨ」と照れたり、「オーオー」と指をさしたりと。アトラクションでは、合唱にクイズにビンゴゲームにと盛りあがった。最高だったのは職員劇「みにくいあひるの子」爆笑につぐ爆笑で会場は笑いの渦。難といえ、立食パーティーで3時間は長かったかな。

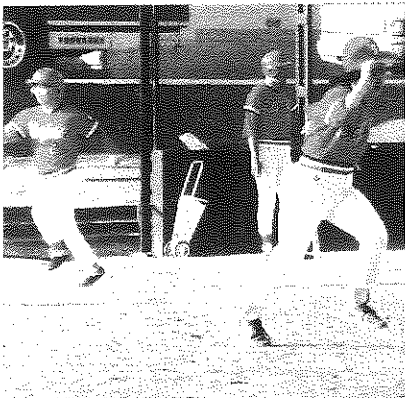
ともあれ、明るい賑やかな年忘れ会で一年間を締めくくれたのは幸いでした。



ソフトボール大会

大会一ヶ月前、毎年のように毎日練習をする日がスタートしました。3年前の練習の時は、「寒いからやりたくない」、「負けてもいい」など、参加することに意義がある」という感じでケガをしないようにという程度の練習でした。ところが今年、ある利用者から「今年は勝つよ。ホームラン打つよ。」と声が上がりました。利用者一人一人に聞いてみると、「勝ちたい」と皆が言っていました。それからの練習は、エラーをしてもいいからボールをすぐ拾う。空振りをしてもいいからボールをよく見るといふことを繰り返して行きました。

そして11月10日大会当日、起床時からユニホームに着替え成田大谷津球場に向かいました。車内ではこやかだった顔が、開会式になると少し緊張気味になっていました。



第2試合、さくら千手園対しもふさ学園、2年前抽選で負けてしまった相手です。「みんながんばれ」職員みんなの気持ちでした。試合は点を取っては取り返されの好ゲーム。最後の一球がキャッチャーのミットに入りゲームセット。7対5で千手園の勝利です。「ヤッター。勝ったぞ！」抽選ではない初勝利です。興奮し初日を終え翌日、2回戦ふるさと学舎との対戦。結果惨敗。来年も勝とう!!

みんな。
(蜂谷)

作業班紹介 (実習班)

「時間だよ。行こうよ。」と活動開始の3分前に、毎日Iさんが迎えに来ます。あわてて身支度をして玄関へ向かうと、すでにメンバーは全員揃って待っています。「遅いよ」と急がされてワゴン車に乗込みいざ出発。5分程車を走らせると仕事先である「千手院」に到着する。実はこの千手院の住職は当園の施設長でもあるのですが、昨年の4月から境内の清掃業務を任されています。そもそも実習班は、従来の作業班から離れ終日労働し賃金を貰うことにより、社会に於いての経済活動を体得し、就労を目標とする班として今年度より発足しました。この1年間、夏は暑い中での草取り、秋は落ち葉の掃き掃除（これが掃いても掃いてもきりが無いのです）、また雨天の時は本堂の雑巾がけをしてきました。現在、メンバーは6名ですが、「やめたい」と言いたす人は今日まで誰もいません。「今日もがんばったね。明日も行こうね。」とむしろ仕事に行くことを楽しみにしている様です。それはいったいなぜなのでしょう。やり甲斐や達成感を味わっているのでしょうか。それとも月給を貰っているという自信やプライドからなのでしょう。いずれにしても職員が弱音を吐きたくなる時でも、一生懸命働いています。現在では職員の援助もほとんど必要がなくなっています。そろそろ千手院の仕事は数名のメンバーに任せて新しい仕事先へ移りたいと考えているのですが、世間の風は冷たかなかなか仕事先が見つからないのが現状です。現在アメリカでは援助就労という形で多くの知的障害者が企業で働いています。働いて収入を得たことにより、施設を出て地域でくらす方が増えてきました。実習班は少しでもその足がかりとなるような活動をしていきたいと考えています。

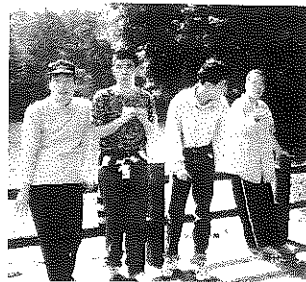
(須藤)



千手園日記

【ニード別外出】

<五色沼>



「ウワーきれい！」これが五色沼を見た第一声でした。まずは沼をバックに写真をとりハイキングを開始しました。場所は福島県裏磐梯高原へ、10月7〜9日の3日間行って来ました。

最初の2日間が天候に恵まれずあきらめていた最終日、「ヤッター！晴れてる。」と思わず叫んでいました。

コースは少し道が狭く、前日までの悪天候で滑りやすく歩くのが少し大変でしたが、木漏れ日を受けてキラキラ反射している沼がとてもきれいで、「Jさんが水をすくって「つめたい。」と笑って言った顔がとても素敵でした。

(菅野)

<温泉>



秋晴れの十一月四日、榛名吾妻路へ二泊三日の旅に出発しました。宿は湖畔に面し展望風呂が素晴らしい、つい長湯をしたり、何度も入りたがる人もいました。食事は宴会部長のTさんの乾杯で盛り上がり、普段和食党のSさんはあまりの美味しさにグラタンをおかわりする場面もみられました。二日目は榛名富士をロープウェイで登山し、また紅葉には少し早い吾妻渓谷をドライブしましたが絶景に身を乗り出す人や擦れ違うバスに手を振る人もいました。湖畔に戻ると夕陽を背景に記念撮影。最後の日はりんご狩りに舌鼓。温泉と紅葉そしてグルメの旅は楽しい思い出となりました。

(小宮)

<長崎>



12月7日、ニード別外出で長崎へ出発の日です。午後から新幹線。寝台列車を乗りつぎ、長崎へ到着したのは次の日の朝でした。皆寝台に乗るのが初めてで、夜はほとんど寝ることができませんでした。が、元気に市内観光をしました。皆は路面電車が通っているのを見て興味を持ちながらも、不思議そうなお顔をしていたのが印象的でした。次の日はハウステンボスで一日を自由に過ごし、それぞれ興味のあるアトラクションを周り、笑顔一杯でした。こうして楽しい旅行は終わりましたが帰りの飛行機では、「また長崎に行きたい。」と言う声が聞け、思い出に残る旅行だったと思います。

(山本)

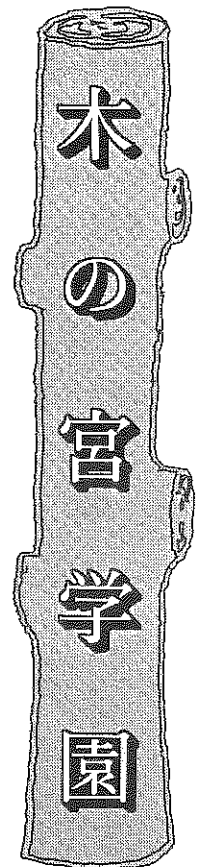
華道



華道クラブ

こんにちは、華道クラブです。第1・第3週の金曜日に実施しています。特に第1週目は華道のボランティアの先生を迎えて実施しています。日頃から接している職員より先生としてボランティアの方に教えてもらおう華道は新鮮な様です。M・Kさんはお花が大好きな女の子です。普段からきれいなお花を見つけるとお部屋を持ち帰り飾っています。もちろん毎週のように華道クラブへ参加しています。真剣な表情でお花を切り剣山に生けます。「あらステキなお花が出来たねえ」と本人も満足気です。出来上がったお花は食堂へ飾りました。他の利用者もそれを見て楽しんでいきます。(華生ける 年重ねると髪抜ける)

(大内)



新年会・もちつき会

前夜よりの大寒波。もしかしたら雪になるのではないかと心配されていましたが、まずまずの天気となりひと安心です。

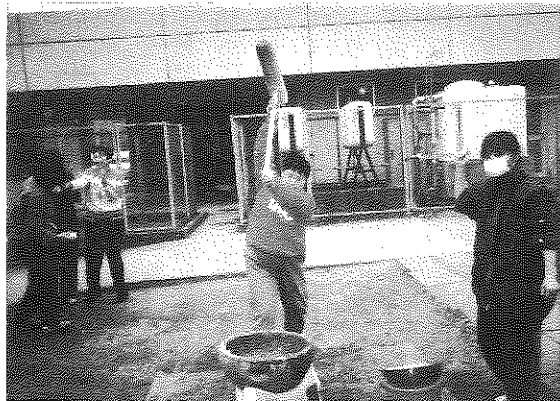
10時45分、多目的ホールにて新年会の「成人式」が始まりました。今年、成人を迎えた6人の方に出て来てもらい、学園の皆さんから「おめでとう」の気持ちを込めてきれいな花束が送られました。恥ずかしがり屋のMさん、VサインをしているHさん、笑顔のYさんとOさん、6人を代表して20歳の抱負を語ったMさん、皆とても誇らしげな表情をしていました。

11時より「もちつき・昼食会」となりました。お父さんやお母さん、ボランティアの方々とお母さん、ポランティアの方々とお母さん、おもちをついていました。つき上がったおもちは大変身。農芸班のたくあんも大好評。「おいしいです!」とおか

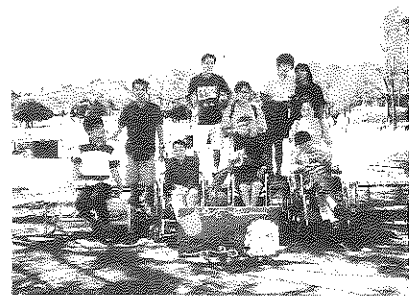
わりにくる人、お腹が一杯になり満足顔でひと息ついている人など、皆さん「もちつき会」の楽しい一日を過ごせたように感じました。

最後にご協力をいただきました皆様、本当に有難うございました。
(小石)

ヨイシヨ!



マザー牧場



去る10月1・2日マザー牧場方面へと一泊旅行に行ってきました。出発は生憎の雨でしたが、ホテルに着いてからジャグジーで遊び、大きなプールで気持ち良さそうに声をだして大喜び。運動後、「ご飯、ご飯」とお腹が空いて待ちきれない皆の前に出てきたのは、とても美味しそうな海の幸。ワイワイ、ガヤガヤ、楽しい雰囲気の中お腹一杯食べました。一夜明けて打って変わった晴天に恵まれたマザー牧場。動物に笑顔で走り寄っていく方、広々とした牧場をゆっくりと散策する方、どの顔も生き生きと輝き、自然とのふれあいを満喫していました。小人数で出かけた今回の旅行、皆さんのんびりと過ごしていました。

(高橋)

木の宮日記

長野

11月26日から1泊2日で、軽井沢へグループ旅行に行ってきました。皆が楽しみに胸をふくらませていた新幹線は、乗ったかと思うとあっという間に長野へ。3℃という気温の中、まず1日目は塩沢湖。ゴーカートに乗り一人一人笑顔でハイポーズ。その後、広い湖でのボート遊びの後に旅館へ向かいました。夜は大浴場に入りのおんぼりと。2日目は絵本の森美術館・エルソオモチャ博物館へと行きました。童話の本を手にとり、帰りにはお土産をいっぱいかかえて。「楽しかったね」「新幹線に乗れてよかったね」という声。よい思い出ができました。

(保谷)



塩沢湖にて

ボランティア紹介

～第3回 木の宮学園「学園祭」にて～

今年で木の宮学園「学園祭」も3回目となり、お手伝いをしてくれるボランティアさんも次第に増え、内容も充実してきました。今回は前日からの悪天候により、室内だけでの開催にも関わらず、100名以上のボランティアさんが協力してくれ、利用者の方々とゲームをして楽しく過ごしたり、模擬店やゲームコーナーの手伝いをしてくれました。毎年協力して下さるボーイスカウト・井野中学校・佐倉西高校の皆さんを始め、ボランティア教室からのお付き合いとなっている方など大勢の方が参加してくれました。今回も盛大な学園祭となり、これもボランティアさん達の協力があったからだ実感し感謝しています。(吉村)



佐倉市立井野中学校
音楽部の皆さん

渡辺 望

井野中音楽部です。毎年お声をかけていただきありがとうございます。そしていつも私たちの演奏をあなたかく見守ってくれてとてもうれしいです。

初めて学園祭に参加させていただいた時は「私達に何ができるだろう。何をすればいいんだろう」という不安がありました。でも実際に利用者の皆さんにお会

いして、そんな不安はふっとんでしまいました。それは私達を無条件でつんでくれたからだと思います。演奏中は体じゅうで音楽に反応してくれて、とっても楽しんでみんなしてくれたり、お茶と一緒にいたたく時も視線をそむけずまっすぐ見てくれました。利用者さんとの時間はあっという間に過ぎてしまいます。そして次の年、今年お友達になった方との再会には心が熱くなります。それまでの自分の「きらい」はどこかに消えてしまった様に思います。

千葉県立佐倉西
高等学校の皆さん

鈴木 譲

高校生活の中で二回ほど、木の宮学園の学園祭に参加した事がある。そこには様々な顔があり共に過ごしていて、私自身、驚いた事が山ほどある。その中から一つ取り出してみる。

彼らは、普段私に気にも止めていないことや、考えもしない事を、次々に飛び出させてくる。そしてこれが私には、何とも不思議で暖



かい、日々の暮らしの中にある感情が、何の変化もなく、真っ直ぐ伝わってくるので、活動の後での胸の高鳴りは、しばらく止まない程であった。

一期一会という言葉がある。私は彼等との出会いを、これからも大事にしたいと思う。なぜなら、ここに来ると、とても柔らかな気持ちになるからである。

皆さんも、彼等の小さな花を、見に行つて心で感じる物を、探して来て下さい。

私はまだ、見つからないので、しばらく、通うと思います。

Approach

アプローチ=接近する・研究方法

治療教育学 ― その六一 ―

施設はどうあるべきか

*治療教育・臨床活動とは
相手との間に、特別な人間関係を築くことだと
知ること。

これは、心理学・精神医学で『治療的関係』、社会福祉では『援助関係』といわれることである。相手がこちら（治療者・援助者）に対して信頼感を持ち、こちらと一緒にいることで安心できるという関係を築くことである。それには、先ず相手に信頼してもらえようにふるまうことが治療教育の第一歩である。それは相手の行動の一つひとつを良い悪いなどと決めたり評価したりせず、その行動はその人の存在の証しである。とみて、その人のすることあるがままに認めるといふことから始まる。これが「受容」である。困った行動をする人にはその行動を否定したり、やめさせようと働きかけるのではなく、

先ず、その人は、この行動で、こちらに何を言おうとしているのかこの問題の意味は何かと考える。自分は受入れられていると相手が感じてくれたら行動の変容へむけてのその後の介入は効果をあげてくれるし、それからよい関係は継続するのである。

*自立と自己決定について
『治療教育』の目的は、「個人の発達の促進と、問題の改善、克服とにあり……その生活の向上充実を保障すること」であるとすれば、生活の向上充実とは、本人が自分の生活の『主人公』になる。つまり、自分の生活を自分で決定できることが保障されることである。「自立・自立生活」とは他人のたすけをかりずに自分でやって



信頼関係づくり

いくことではなく、自分の生活の在り方・どういう暮らし方をしたいか（援助をうけるかどうかも含めて）を自分で決めるといふこと。自己決定なのである。自己決定する機会も少なく、それを尊重されることも殆どなく過ぎてきた人に、施設では、複数の食事のメニューを用意したり、行事や活動を利用者の希望によって決定したりする工夫がなされることが増えてきた。これは結構なことだ。が、選択肢の意味が十分に説明されなかったり、選択肢が職員の都合や好みで決められたり、と、流行りにのっていただけ……と言いたくなる場面もあるように思う。

十分に表現されない本人の意志や欲求・願望をどれだけ汲み取れるか、どうやって確認するかが実は、難しくて大事な問題である。今、各所で問題となっている成年後見法や、権利代弁にとってもこのことは中心的課題となっているところである。長い歴史と、多くの専門職のいる施設において、この課題に対する回答が出されることを期待したいものである。

*治療教育とは、対象の人のすべ
ての問題に関わり、しかも生涯

にわたって行われるものである。ということは、治療教育という活動が、施設等の限られた場だけでなく、なされる性質のものではないことを意味する。施設も家庭も、専門家も非専門家（市民）もともに協力する態勢をつくってすべての人が、生き生きと、暮らしていける社会の構築に向けて力を出し合っている。施設は地域に目を向け、地域とのお付き合いを大事にするのを忘れてはならない。

*施設が、利用者の幸せをより高める場となることを期待して、この稿を終わらせて頂く。

渡辺 映子

本論は次のように進めてきた。

- 一・治療教育とは何か
- 二・治療教育の流れ
- 三・今日の治療教育 その一
- 四・ ” その二
- 五、六・施設はどうあるべきか

限られた紙面で、意の通らない点も多いかと危惧している。ご意見（ご異議も）があったら、是非ともお寄せ下さるよう、お願いする。

渡辺先生には、二年間ご執筆
いただき有難うございました。

行事予定

- 2 月**
- 15~18日 ニード別外出：グアム ⊕
- 24日 ゆうあいピック 駅伝大会 ⊕⊗
- 25~26日 グループ旅行：
スパリゾートハワイアンズ ⊕
- 3 月**
- 4~5日 グループ旅行：那須温泉 ⊕
- 24日 作業班別 1 日外出 ⊕
- 4 月**
- 20~22日 ニード別外出：
はとバス・ディズニーランド ⊕
- 5 月**
- 25~27日 ニード別外出：ハイキング ⊕
- 26日 ゆうあいピック千葉県大会 ⊕⊗
⊕；千手園 ⊗；木の宮学園



ご寄付に感謝いたします

あさぎ会様、佐藤書道教室様、観音寺安田芳照様、中志津二丁目、七丁目自治会様、ひまわり会様

保護者会バザーのお礼

昨年末の年忘れ会の折、バザーを併催させて頂きました。多くの方々にご協力を頂いたおかげで、一七〇、八〇〇円の収益をあげることが出来ました。収益金は今後利用者の為に有意義に使わせて頂きます。保護者会一同心より感謝申し上げます。

(木の宮学園保護者会)

わたしたちの作品

以前陶芸班の紹介を致しました。今回は、作品紹介です。西洋陶芸には石こうで作られた型を使用します。その石こう型も少しずつ増やしています。以前は花瓶など水を入れたりする作品が多かったのですが、見た目には上手く出来ている物でも水もれしたりして、難しい面がありましたので、自信を持って皆様に買って頂ける様な作品を作っていきたいと考えています。単に置き物というのではなく、ローソク立て、ベルなど使える物、また出来上がった作品に手を加え



けたらとても嬉しいことです。その為には私達も心を込めて丁寧な作っていかねばと思っております。また、行く行くは、和陶芸にも挑戦してみたいので、ポランティアで和陶芸を教えて下さる方はいらっしやいませんか？ぜひよろしくお願い致します。

(久島)

おめでとーございませす

★成人

- 。岡崎 文恵さん (千手園)
- 。三橋 美穂さん (木の宮)
- 。西村 高志さん (木の宮)
- 。押切 俊介さん (木の宮)
- 。日野 幸子さん (木の宮)
- 。山岸 信宏さん (木の宮)
- 。三浦 貴浩さん (木の宮)
- ★還暦
- 。服部 シズさん (千手園)

★お誕生

- 。島田 知則さん (千手園)
- 11月7日 長女 智美ちゃん (さとう)

よろしくお願ひします

配食サービスマ調理員パート

- 。小嶺 ミエ子さん
- 。鈴木 和枝さん

編集後記

今回福祉広報コンクールにひだまりを応募した所、66点の応募作品の中から佳作に入選し、読みごたえがあるとの評価をいただいた。今年はさらに干支の様に、ピョンと跳ねた動きのある広報誌にしていきたいと思っています。(島田)